

前回の「肺がん部会」の議論について

■令和4年度肺がん部会（令和5年3月開催）

□報告事項

（1）肺がん検診の現状

① 肺がんの死亡・罹患状況、肺がん検診受診率等

- ・ 予後が悪く、罹患率に比べると死亡率が高い。患者への支援が必要。
- ・ 年齢調整死亡率は緩やかな右下がり。男性は全国と同等、女性は全国と比べると県のほうが低いが、その差は縮まってきている。
- ・ 男性の罹患数は、全国に比べ島根県全体で有意に多い。
- ・ 男女ともに標準化死亡比は県全体で有意に低い。
- ・ 益田医療圏は男女ともに他の医療圏よりも限局割合が少なく、生存率は有意に低い。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響について、肺がんは2020年の検診発見例が減少していたが、2021年は回復した
- ・ 肺がん検診受診率は、全住民、国保対象者ともに全国平均より低い。

② 近年受診率の低かった益田市の取組について報告。

他の市町村では、結核健診と併用検診としているところ、益田市は別々に実施している。また、結核健診に比べ肺がん検診の年間の実施回数は少ない状況。R6に向けては、いくつかの結核健診を併用検診にするなど、検討を進めている。

□協議事項

（1）肺がん検診の個別検診導入に向けて

肺がん検診の個別検診化に向けて、読影医の状況や外部機関への読影委託について情報提供。個別検診の実施見込件数が、現在個別検診を実施している市町村の受診割合から試算すると約2,000名であり、必要な読影医数は問題なく確保できるのではないかとの意見あり。

個別検診導入に向けて、遠隔読影ができる体制（システム）を検討する等、現状と課題を整理し関係機関と検討を行う。